

2022年（令和四年）

6月3日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

5/19～5/25のNYMEX・WTI先物市場は、109.77～113.23ドルの範囲で推移した。

5月26日は、米国の夏のドライブシーズン入りを目前にして、ガソリンを中心とした石油需要の高まりへの期待感から、大きく続伸した。前日の米国の原油在庫減少や原油輸出増加、製油所稼働率上昇の統計発表、また、ギリシャがロシアの運航するイラン船籍タンカーを拿捕、米国が積み荷のイラン産原油を押収したとの報道も値上がり要因。7月限の終値は前日比3.76ドル高の114.09ドル。

週末27日は、引き続き、米国の需要拡大期待、近日中の欧州連合（EU）のロシア産石油輸入禁止の合意観測から、3日続伸した。タンカー拿捕への報復として、イラン革命防衛隊がギリシャ船籍タンカー2隻を拿捕したとの報道も値上がり要因。ただ、週末の3連休を控えた利益確定売りが上値を抑えた。7月限の終値は前日比0.98ドル高の115.07ドル。

30日は、メモリアルデーの祝日につき、休場。米国では、夏のドライブシーズン入り。

連休明け31日は、EUの海上輸送分のロシア産原油の輸入禁止決定、1日からの中国・上海の外出規制緩和、米国のドライブシーズン期待による需給ひっ迫予想から、午前中、一時119.87ドルと3か月ぶりの高値を付けたが、午後からは、高値による利益確定売りに加え、ロシアの減産分のOPECプラスによる増産拡大観測の報道で、4営業日ぶりに反落した。7月限の終値は前日比0.40ドル安の114.67ドル。

6月1日は、先週末のEUのロシア産原油の原則輸入禁止、中国・上海の都市封鎖解除への期待感などから、反発した。7月限の終値は、前日比0.59ドル高の115.26ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（7月渡し）は、5月19日～25日の間、106.60～109.50ドルの範囲で推移した。5月26日109.90ドル、27日111.30ドル、30日114.10ドル、31日117.50ドル、6月1日111.60ドルで推移した。

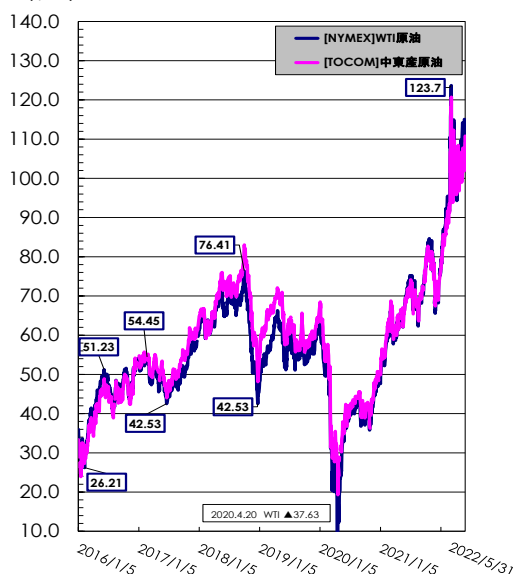
為替は、5月19日～25日の間、126.98～128.43円の範囲で推移した。5月26日127.51円、27日127.03円、30日127.02円、31日128.21円、6月1日128.93円で推移した。

財務省が5月27日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、5月上旬の原油輸入平均CIF価格は、87.085円/klで、前旬比904円高、ドル建て108.01ドルで前旬比1.69ドル安、為替レートは1ドル/128.18円。

そのような中で、5月30日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.6円の値下がり、軽油も同0.6円の値下がり、灯油は7円の値下がり（18㍲ベース）であった。ガソリンは7週連続の値下がり、軽油も7週連続の値下がり、灯油は6週連続の値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は168.2円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は36.7円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/22 ~ 5/28	2,733 ▼ -163	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	71.0 ▼ -4.3	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/28	9,782 ▲ 551	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	5/30	108.30 ▲ 4.46	▲ 42.0
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/31	114.67 ▲ 4.38	▲ 47.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月上旬	108.01 ▼ -1.69	▲ 42.45
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	87,085 ▲ 904	▲ 42,204
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	128.18 ▼ -3.28	▼ -19.34
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/30	128.02 ▲ 0.76	▼ -17.26

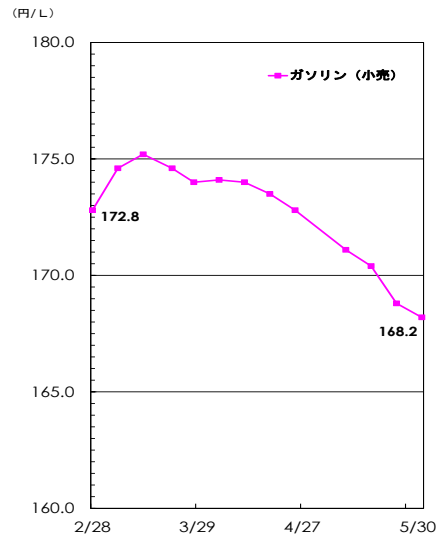
(\$/b)



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/22 ~ 5/28	799 ▼ -38 ▲	—
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	751 ▼ -7 ▲	—
	輸出	"	0 ▼ -165 ▲	—
	在庫	5/28	1,676 ▲ 47 ▼	—
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/24 ~ 5/30	72.9 ▲ 1.1 ▲	11.8
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/24 ~ 5/30	74.8 ▲ 1.7 ▲	15.3
	(TOCOM/中部)	5/30	73.0 ➡ 0.0 ▲	12.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/30	168.2 ▼ -0.6 ▲	15.7

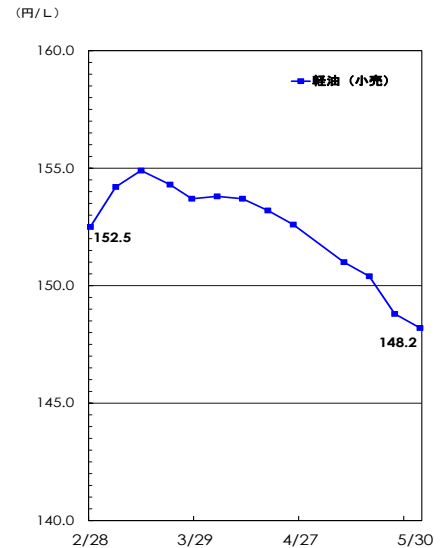
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

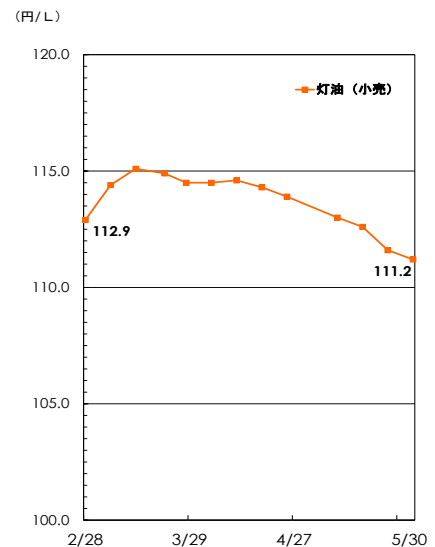
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/22 ~ 5/28	654 ▼ -119 ▲	—
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	723 ▲ 101 ▲	—
	輸出	"	126 ▼ -48 ▲	—
	在庫	5/28	1,420 ▼ -196 ▼	—
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/24 ~ 5/30	73.8 ▲ 1.6 ▲	10.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/24 ~ 5/30	87.1 ▼ -1.5 ▲	21.8
	(TOCOM/中部)	5/30	— —	—
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/30	148.2 ▼ -0.6 ▲	15.6

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/22 ~ 5/28	108 ▼ -47 ▼	—
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	109 ▲ 23 ▲	—
	輸出	"	27 ▼ -20 ▲	—
	在庫	5/28	1,299 ▼ -27 ▼	—
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/24 ~ 5/30	73.0 ▲ 1.2 ▲	10.4
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/24 ~ 5/30	74.1 ➡ 0.0 ▲	15.7
	(TOCOM/中部)	5/30	74.1 ▲ 0.1 ▲	12.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/30	111.2 ▼ -0.4 ▲	18.0



## ■ 関連情報

## 1 海外/原油

6月1日のNYMEX先物原油は、先週の欧州連合によるロシア産石油の輸入禁止（パイプライン経由を除く）の決定や1日からの中国・上海のロックダウン解除に伴う経済再開への期待、米国のドライブシーズン入りによるガソリン需要増加期待などから、反発した。ただ、高値圏での利食い売りなどもあり、上値は固かった。また、2日開催予定のOPECプラスの閣僚会合の見通しについては、7月以降の増産方針を従来通り維持するとの見方と拡大するとの見方に分かれた。同日発表予定の米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫週報は、三連休のため、2日の発表。7月限は0.59ドル高の115.26ドル、8月限は0.81ドル高の112.72ドルだった。

EIAによると、5月30日時点のガソリンの小売価格は、前週

比3.1セント値上がりの1ガロン4.624ドル(156.2円/ℓ)、ディーゼルは同3.2セント値下がりの5.539ℓ(187.1円/ℓ)となった。ガソリンは6週連続の値上がり、ディーゼルは3週連続の値下がりになった。

ベーカーヒューズ社によると、5月27日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比2基減の574基と10週ぶりの減少。

## 2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年5月22日～5月28日に休止したトッパー能力は66.0万バレル/日で、前週に対して15.7万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は273.3万klと、前週に比べ16.3万kl減少。前年に対しては31.2万klの増加。トッパー稼働率は71.0%と前週に対して4.3ポイントの減少、前年に対しては8.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてA重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.5%減、ジェット/19.0%減、灯油/30.4%減、軽油/15.5%減、A重油/8.9%増、C重油/12.3%減。今週のC重油の輸入は2.8万kl(前週比2.8万kl増)。軽油の輸出は12.6万kl(前週比4.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で灯油、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

前年比ではジェットが減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は75.1万kl(対前週0.8%減)と3週連続で減少した。ジェット9.0万kl(対前週5.7%減)、灯油10.9万kl(対前週

26.7%増)、軽油72.3万kl(対前週16.2%増)、A重油18.4万kl(対前週1.8%減)、C重油21.2万kl(対前週16.1%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (5/22 ~ 5/28)	前週 (5/15 ~ 5/21)	前週比
ガソリン	751	758	▼ -7 (-1%)
ジェット燃料	90	95	▼ -5 (-5%)
灯油	109	86	▲ 23 (27%)
軽油	723	622	▲ 101 (16%)
A重油	184	187	▼ -3 (-2%)
C重油	212	183	▲ 29 (16%)
合 計	2,069	1,931	▲ 138 (7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月30日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは167.6万kl、前週差4.7万kl増。前年に対しては59.7万kl少ない。

灯油は129.9万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては26.4万kl少ない。

軽油は142.0万kl、前週差19.6万kl減。前年に対しては49.4万kl少ない。

A重油は72.4万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては6.1万kl少ない。

C重油は177.7万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては19.6万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (5/28)	前週 (5/21)	前週比
ガソリン	1,676	1,629	▲ 47 (3%)
ジェット燃料	826	824	▲ 2 (0%)
灯油	1,299	1,326	▼ -27 (-2%)
軽油	1,420	1,616	▼ -196 (-12%)
A重油	724	719	▲ 5 (1%)
C重油	1,777	1,770	▲ 7 (0%)
合 計	7,722	7,884	▼ -162 (-2.1%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月24日～30日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートの円高が相殺したが、5月の中東産原油の調整金の値上がり分と合わせて、元売会社の原油コストは4.0円値上がりしたものと見られる。

上記コストアップに先週の補助金額37.3円を加えたコスト上昇額41.3円に、補助金36.7円(計算上38.5円になるが、35

円を超える値上がり分は半額支給)が支給されることから、次週(6/2～6/8)の元売会社の実質的な卸価格は4.6円の値上げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月24日～30日の製品スポット市況は、5月17日～23日平均と比べ、先物・灯油の横ばい、先物・軽油の値下がりを除いて、他の取引・油種で値上がりした。

直近週(5/24～5/30)の陸上スポット価格平均値は、前週(5/17～5/23)比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は1.2円の値上がり、軽油は1.6円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(5/24～5/30)に、前週(5/17～5/23)比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は2.5円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.7円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は1.5円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (5/24～5/30)	前週 (5/17～5/23)	前週比
	レギュラー	72.9	71.8	▲ 1.1
	灯油	73.0	71.8	▲ 1.2
	軽油	73.8	72.2	▲ 1.6

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	[期近物/終値] [平均]	今週 (5/24～5/30)	前週 (5/17～5/23)	前週比
	レギュラー	74.8	73.1	▲ 1.7
	灯油	74.1	74.1	→ 0.0
	軽油	87.1	88.6	▼ -1.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/24～5/30実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 1.1	▲ 1.7	▲ 1.4	
灯油	▲ 1.2	→ 0.0	▲ 0.6	
軽油	▲ 1.6	▼ -1.5	▲ 0.1	
A重油	▲ 1.1			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

5月30日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円安の168.2円、軽油も同0.6円安の148.2円、灯油は18ℓベースで同7円安の2,002円(1ℓベースでは同0.4円安の111.2円)。ガソリンは7週連続の値下がり、軽油も7週連続の値下がり、灯油は6週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは5県、横ばいは2県、値下がりが40都道府県だった。全国最安値は埼玉県161.4円、その次は岩手県の161.5円であった。他方、最高値は長崎県の181.5円だった。最も値上がりしたのは群馬県(前週比0.9円高)、横ばいは山形県と富山県、最も値下がりしたのは香川県(前週比2.5円安)だった。

次回調査時(6/6)のガソリンの小売価格は、値上がり予想される。

					(単位: 円/ℓ)	
(資工庁公表) [週動向]		今週 (5/30)	前週 (5/23)	前週比	直近高値	
小 売 価 格	レギュラー	168.2	168.8	▼ -0.6	08/8/4	185.1
	灯油	111.2	111.6	▼ -0.4	08/8/11	132.1
	軽油	148.2	148.8	▼ -0.6	08/8/4	167.4

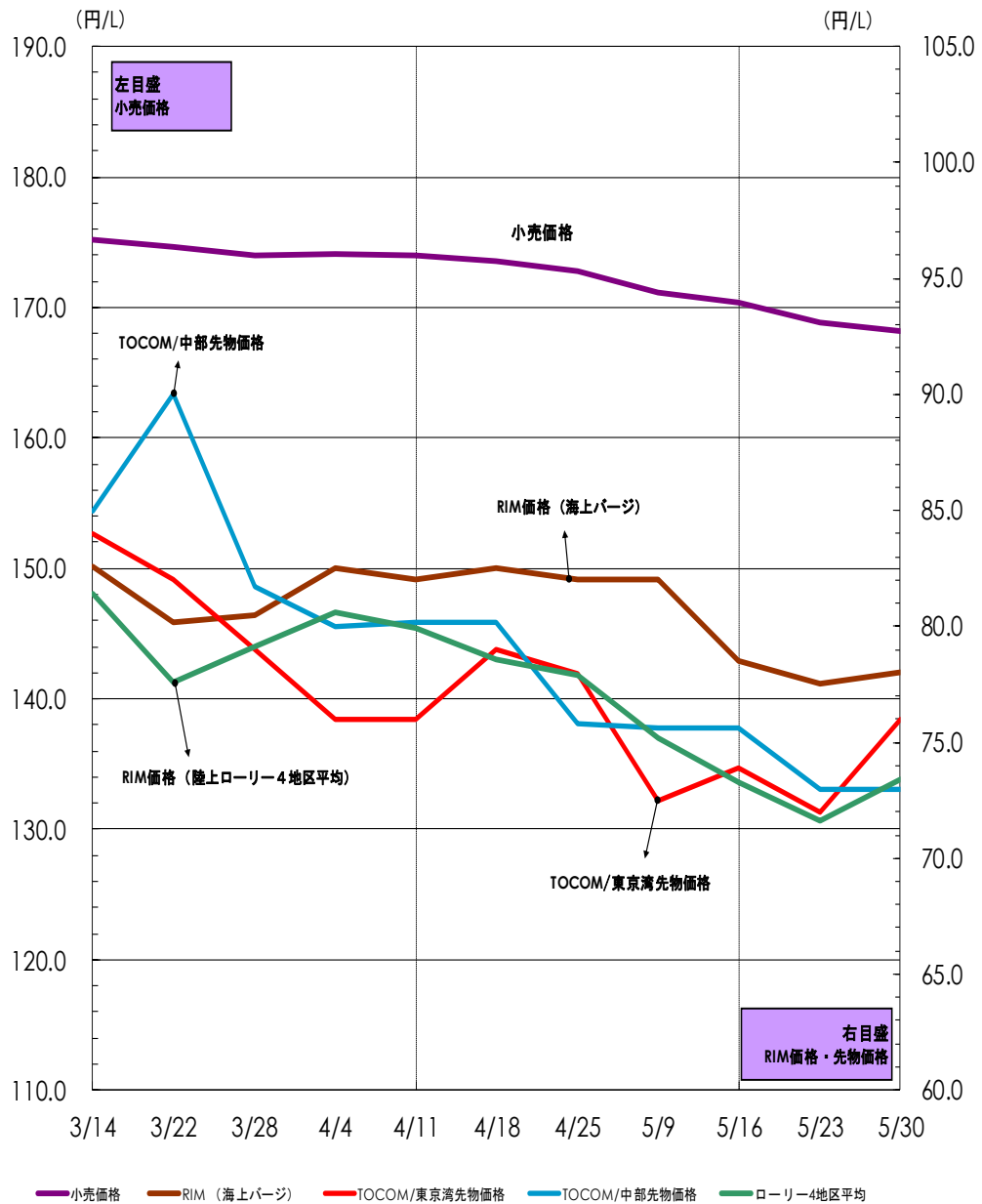
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2022/3/14 ~ 2022/5/30)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2022第10号)の公表は、6/10(金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。